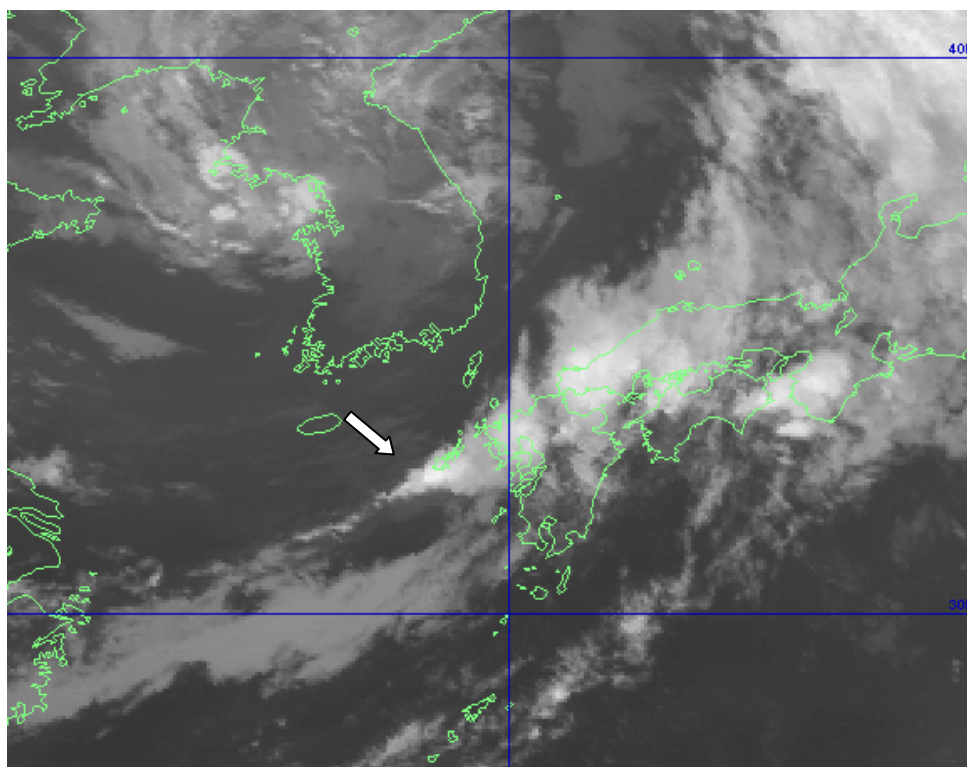


# 気象衛星画像

## －今月のトピックス－



2003年7月19日7時の赤外画像

### 梅雨末期の集中豪雨

写真は7月19日7時の赤外画像である。長崎県付近から九州西海上にかけて、西南西に向かって次第に細くなっている雲域（矢印）が見られる。雲域が細い三角形の形状をしており、穂先状になっていることから「テーパリングクラウド」と呼ばれる。これは、東シナ海から九州地方に吹き込む風の流れに沿うように発達した対流雲列と上層風に流される巻雲から構成され、特に穂先部分において豪雨・突風・雷等の顕著な気象現象を伴うことが多い。

この日の3時の地上天気図を見ると、九州北部に梅雨前線が停滞しており、そこに太平洋高気圧の周辺を沿うようにして南西から暖かく湿った空気が流入していた。18日から20日にかけてこのような状態が続いたため、九州地方では大気の状態が不安定となり、各地で積乱雲が発生し雷を伴った激しい雨となった。梅雨末期は局地的な集中豪雨が発生し、大きな災害をもたらすことが多いので注意が必要である。

（気象衛星センター）